

六義園 Rikugien Gardens

和歌の心息づく雅な大名庭園



スタンプ欄

特別名勝

六義園

■開園年月日 昭和13(1938)年10月16日

■開園面積 87,809.41m²

■開園時間 午前9時～午後5時

(入園は午後4時30分まで)

※イベント開催期間などで時間延長が行われる場合もあります。

■休園日 年末年始(12/29～1/1)

■無料公開日 みどりの日(5月4日)

都民の日(10月1日)

■庭園ガイド(無料)

土、日曜日、祝日

(午前11時と午後2時の1日2回)

※気象状況等により実施を中止する場合があります。
当日の実施についてはサービスセンターにお問い合わせください。

【お問合せ先】

六義園サービスセンター

☎03-3941-2222

〒113-0021東京都文京区本駒込6-16-3

入園料	個人	団体 (20名以上)	年間パスポート (六義園)	年間パスポート (9庭園共通)	
	一般	300円	240円	1,200円	4,000円
65歳以上	150円	120円	600円	2,000円	
無料			小学生以下(要付添)及び中学生(都内在住もしくは在学) 身体障害者手帳、ミライロID、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳 または療育手帳持参の方と付添の方		

六義園・旧古河庭園“園結びチケット” 一般 400円 65歳以上 200円

集会場 (貸室)	①午前の部 9:00～12:00	②午後の部 12:30～16:00	③1日 9:00～16:00	
	心泉亭 全室(25名)	4,800円	4,800円	9,600円
心泉亭 松・つじの間(17名)	3,600円	3,600円	7,200円	
心泉亭 もみじの間(8名)	1,200円	1,200円	2,400円	
宜春亭 茶室(5名)	7,400円	7,400円	14,800円	

※6ヶ月前の同日午前10時から受け付けます。 ※別途入園料が必要です。



東京都公園協会全般に関する問い合わせ先
東京都公園協会本社 TEL. 03-3232-3011 ※8:30～17:30 (土日・祝日、年末年始を除く)
<https://www.tokyo-park.or.jp>
発行：文化財庭園課 TEL. 03-3232-3018

23.10

指定管理者 公益財団法人 東京都公園協会



文化財庭園へご来園の皆様へ

都立庭園は、江戸、明治、大正時代から続く歴史・文化・自然を兼ね備えており、いずれも国や都の文化財に指定されています。

震災や戦災、進む都市化の中で残された貴重な存在であり、この貴重な存在がよりよい状態で後世に残るよう、皆様にご理解とご協力をお願いいたします。

【庭園からのお願い】

○ペット(動物)を連れてのご入園、園内の動植物の採集、敷物の利用、酒類の持込みはご遠慮ください。

○写真撮影、写生は建物・添景物保護のためにお断りする場所があります。

○文化財は不定期で保存修理工事を要することがあり、一部ご観賞いただけない部分があります。

○園内全面禁煙です。

喫煙所はありません。

都立文化財9庭園

浜離宮恩賜庭園

旧芝離宮恩賜庭園

小石川後楽園

六義園

旧岩崎邸庭園

向島百花園

清澄庭園

旧古河庭園

殿ヶ谷戸庭園

和歌の庭

六義園は五代将軍・徳川綱吉の信任が厚かった川越藩主・柳澤吉保が元禄15(1702)年に築園した和歌の趣味を基調とする「回遊式築山泉水」の大名庭園です。当園は池をめぐる園路を歩きながら移り変わる景色を楽しめる繊細で温和な日本庭園です。園内には和歌の浦の景勝や和歌に詠まれた名勝、中国古典の景観が八十八境として映し出されています。

江戸時代の大名庭園の中でも代表的なもので、明治11年(1878年)、三菱の創業者である岩崎彌太郎の別邸となりました。その後、昭和13(1938)年に岩崎家より東京市(都)に寄付され、昭和28(1953)年に国の特別名勝に指定された貴重な文化財です。



つづじ茶屋

明治年間、つづじの古木材を用いて建てられたものです。戦災をまぬがれ、現代にその希少な姿を伝えています。モミジの紅葉が見事です。



滝見茶屋

あずまやの横を渓流が走り、岩の間から落ちて水しぶきをあげています。あずまやは、滝や石組(水分石／みずわけいし)などの景観や水音が楽しめます。



石柱

庭内の88ヵ所の景勝地(六義園八十八境)には、それぞれに石柱が建てられていきましたが、現在では32ヵ所のみが残っています。

園名の由来

六義園の名は、中国の詩の分類法(詩の六義)にならった古今集の序にある和歌の分類の六体(そえ歌、かぞえ歌、なづらえ歌、たとえ歌、ただごと歌、いわい歌)に由来したものです。柳澤吉保自身の撰した「六義園記」では、日本風に「むくさのそと」と呼んでいましたが、現在では漢音読みで「六義」を「りくぎ」と読む習わしから、「りくぎん」と読みます。



蓬萊島

神仙思想を主題とした石組の一種で、典型的な洞窟石組(アーチ形)の島です。

庭園ガイド

ボランティアガイドと一緒に園内を散策しながら六義園の見どころ、日本庭園の話、歴史の話、和歌の話などを聞いてみませんか。

※土曜日曜、祝祭日の午前11時と午後2時の2回、所要時間約60分(無料)

藤代峠

園内で一番高い築山で、標高は35m。いただきは「富士見山」と呼ばれ、そこからは素晴らしい展望が



開けています。紀州(現在の和歌山)にある同名の峠から名付けられました。

蜘蛛道

古くはクモを「蜘蛛」と呼び、この小道がクモの糸のように細いことから名付けられました。



渡月橋

「和歌のうら 蘆辺の田靄の鳴くこゑに 夜わたる月の影ぞさびしき」の歌から名付けられた石の橋。2枚の大岩の重量感があり、あたりの雰囲気を引き締めています。

妹山・背山

中の島にある築山。古くは女性のことを妹、男性のことを背と呼び、この中の島は男女の間柄を表現しています。イザナギ、イザナミの故事にちなんだ「せきれい石」もあります。

※中の島には入ることができません。



出汐湊

大泉水の池畔の名のひとつ。眺望に恵まれ、右手に中の島、左手に蓬萊島、対岸に吹上浜が見えます。

内庭大门

庭園の中心に入るための門で、広場にはしだれ桜の大木が植えられています。

